

# 大きな財産持って帰国

7月29日(日)～8月3日(金)の日程で、米国ニュージャージー州・ニューヨーク州に派遣された青少年スポーツ国際交流使節団。柔道による親善と、未来を担う子どもたちの国際感覚を養うため、派遣されたものです。

今回の派遣では、町出身で、米国五輪チームコーチや、米国柔道連盟会長などを歴任した柔道家 米塚義定氏との縁により、同氏が経営する柔道空手センター練習生と合同練習・親善試合を行ってきました。

## ■交流・理解という経験をした団員

使節団員は、言葉が通じない相手と練習・試合をするという、めったにない経験をしました。日本を飛び立っても「現地の練習生と理解し合えるか、言葉が通じるか」といった不安がつきまわっていたようですが、彼らの感想を見ると、身振りや手振りを交え、何とか伝えようという努力が見えました。また、米国の練習生も片言の日本語で話してくる気遣いがあったようで、理解・交流することの喜びが感じられました。

子どもたちは、旅を通じて食の違いに悩まされたようですが、これもまた大きな経験の1つ。ニューヨーク市内の視察でも、世界経済の中心たるニューヨークの圧倒的なスケールを肌で感じ、それぞれにとって大きな財産を得たようでした。



【親善試合を終えて交流する使節団員と米国練習生】

## ■町へも大きな財産

今回の使節団派遣では、米塚氏の計らいにより、当地役場を公式訪問する機会に恵まれました。同氏が在住しているクランフォード町では、ロビンソン町長はじめ町幹部が使節団を出迎え、歓迎のセレモニーがとり行われました。

このセレモニーでは、友好・親善の証として、使節団に対しバッジなどのほか、クランフォード町の公式旗、そして公式な「宣言」が読み上げられ、秋元使節団長に手渡されました。

この公式な宣言の中には「we look forward to a continued relationship and exchange of ideas between the residents of Nakadomari, Japan and Cranford, New Jersey. (私たちは、中泊町とクランフォードの人々が、今後も関係を継続し、交流が図られることを期待している)」と書かれており、町がこれから交流を図る上で、大きな財産をいただきました。



【7月30日付で公式に発行された宣言 (PROCLAMATION)】

■親善試合



奈良翔太くん(3年)

僕は、7月29日に日本を飛び立ちました。青森空港ではいろいろなことをしました。手荷物検査など出国手続きをしました。全部はじめてやることでした。そのあと、飛行機に乗って韓国に行きました。韓国では3時間ほど自由時間があり、空港内を回ってました。韓国内には、さまざまなブランド店が入っていて、すごく興奮しました。そのほかにも、免税店がいっぱい入っていました。

そうしているうちに、アメリカに着きました。アメリカ人はゴリマツチョな人が多くて、ビックリしました。それに、夜だというのに車通りが激しく、クラクションが絶えないので、そこでもまたビックリしました。ホテルに着いたのは、なんと夜中の12時です。アメリカのバス運転手が、道に迷ってしまったからです。

いよいよ、ニューヨークに出発する時間が近づいてきました。韓国からアメリカまで行くのに、なんと13時間もかかります。機内には、トイレ、テレビゲームなどがあります。テレビゲームなどは、けっこう楽しいですよ。機内食も食べました。結構おいしかったです。隣の席の珍田くんは、すぐに寝ました。僕も寝ました。そして、起きたらまた機内食が出てきました。全然体を動かしていないので、腹が減ってません。だけど、ご飯を食べました。

そして次の日です。ビーチに行ったり、飯食ったり、練習したりと、とても忙しかったです。練習では外国人とたくさんやりました。外国人は、とても力が強くてビックリしました。それでもいい練習になりました。その日の夜は、ピザを食べました。おいしかったです。次の日は親善試合をしました。試合が終わり、クランフォードからニューヨークに移動しました。メトロポリタン美術館に行きましたが、とても広くて、出口がどこだか分からなくなるくらい広い美術館です。そのあと、ホテルに行つてご飯を食べて寝ました。

次の日は帰る日です。自由の女神を見たり、いろいろな場所に行き、帰国しました。アメリカはとても楽しいところでした。だけど食べ物は大変でした。今回は、とてもいい経験になりました。

次回は、とてもいい経験になりました。

7月29日(日)

町役場出発

青森空港から仁川空港(韓国)を經由  
ジョン・F・ケネディ空港(米国)到着



【いよいよ米国到着】



【町長・保護者が見送り】

■アメリカに行つて



珍田拓揮くん(3年)

僕は、アメリカ合衆国に行つて楽しかったけど、とても疲れました。まず、青森空港から日本を離れて、韓国の空港でしばらく飛行機を待つてから、ニューヨークの空港に行きました。空港のセキュリティはとても厳しく大変でした。ニューヨークに着いてからは、バスが待つていて、そのバスに乗つて泊まるホテルに着きました。ニューヨークの夜は、安心して寝られませんでした。

柔道が勝つことができてもよかったです。アメリカの子どもたちは、力がとても強く、勝てない相手もいました。でも、いい経験になりました。試合が終わったあとは、昼食をとり、ニューヨーク視察研修で、タイムズスクウェア、国連本部、デイバイン大聖堂、ダコタハウス、セントラルパークに行つたあと、クランフォードのホテルからニューヨークのホテルに行つて、3日目は終わりました。

次の日、朝ホテルを出て、クランフォード柔道空手センターに荷物を預けてから、約1時間ほどクランフォード町視察研修をして、そのあと昼食をとつてからホテルに戻つて休憩し、5時にホテルを出発して、クランフォード柔道空手センターで、練習生と合同練習をして、夕食のピザを食べてから、ホテルに戻つてこの日は終わりました。

4日目は、ホテルで朝食を食べ、チェックアウトしてからニューヨーク市内視察研修で、メトロポリタン美術館、グラウンドゼロ、ウォール街、バッテリーパーク、エンパイアステートビルに行つたあと、ケネディ空港に着き、出国手続きをして、大韓航空にて仁川空港へ、そこから14時間も飛行機に乗つて仁川空港に到着して、空港で自由時間を6時間とり、いよいよ青森空港へ。青森空港へ着いたときは、ほっとしました。空港からバスで役場に到着して解散しました。

3日目は朝食後、クランフォード柔道空手センターで親善試合をしました。親善試合では、日本の

今回アメリカに行つて、日本とは違う文化がたくさんあり、食べるものも自分にあまり合わないところがあったけれど、とてもいい経験にもなつたし、とても楽しかったのでよかったです。

■青少年スポーツ国際交流事業



大橋芽依さん(3年)

7月29日、町役場駐車場に柔道部8人が集まりました。役場前には、私たちを見送る保護者や、兄弟がズラツと並んでいて「あ、とうとう行くんだな」とワクワクと不安な気持ちでバスに乗り込みました。青森空港から仁川空港までの飛行機の機内食は、鶏肉を煮込んだようなもので、とてもおいしかったです。それから乗り換えて、ケネディ空港に向かいました。そこからバスに乗りホテルに着くと、なんとスプリングラーの故障でロビーが水浸しでした。ビックリしたけど、新鮮で楽しかったです。

た。まだ11歳の子たちでも、とても力が強くてびっくりしました。7月31日、この日は米塚先生の道場で親善試合でした。私の相手は16歳で、國士館と柔道着に書いていて少しビビりました。でも、締めで一本勝ちできました。人は見た目で判断しちゃいけないなと思いました。試合後はニューヨークへ向かいました。ビルがどれも高くて、迫力がすごかったです。美術館では、ハリー・ポッターのヴォルデモートに似た彫刻があつておもしろかったです。ホテルまでは、セントラルパーク沿いをバスで行きました。とても広くきれいで、人がたくさんいました。8月1日、フェリーに乗って自由の女神を見に行きました。真下に行くときスゴクデカくて、どうやってフランスから運んだのか不思議に思いました。そして、エンパイアステートビルに行きました。展望台から眺める景色は、霧がかかっていたけど、ニューヨークをグルッと見られて楽しかったです。時差ボケはキツかったですけど、短い時間でたくさんこれから役立つような経験ができ、企画してくれた人たちに感謝の気持ちでいっぱいです。それから、改めていろんな人たちと試合をする楽しさが分かったので、これからは柔道がんばりたいと思いました。

7月30日(月)

克蘭フォード町公式訪問

消防・警察などの見学と公式セレモニー

克蘭フォード柔道空手センターで合同練習



【米国練習生と合同練習】



【公式セレモニーの様子】

■国際交流事業



今 健瑠くん(3年)

僕は初めて、外国に青少年スポーツ国際交流事業で行くことになりました。行くところは、アメリカのニュージャージー州とニューヨーク州でした。今回は柔道で行くので、礼儀正しく行きました。青森空港から韓国の仁川空港に行き、それからアメリカのケネディ空港に行きました。日本とアメリカは、時差が13時間あり、最初はとても時差ボケしました。空港から出ると、アメリカという感じがとてもしました。次の日、ホテルの朝食はドーナツでした。日本と違って、朝から甘い物なので驚きました。朝食を終えたあと、克蘭フォードの町視察に行きました。そこでは、僕たちを招待してくれた米塚先生と一緒に行動しました。克蘭フォードの町視察では、役場と警察署、それから消防署も視察しました。役場では、克蘭フォードの町長にも会え、とても克蘭フォードの文化が分かりました。昼食はホットドッグを食べました。日本の

ホットドッグと違ってウインナーが長く、味がとてもはつきりしていておいしかったです。そのあと、いよいよ柔道場に行きました。外国の人は、予想していたとおりに力が強かったです。英語もがんばって会話しましたが、あまり通じなかつたです。米塚先生も柔道着を着てやりました。やっぱり強いなと思いました。親善試合当日、柔道場の中に入ったら、本当の試合みたいに準備をしていたので、すごいと思いました。自分の試合が近づくと、だんだん緊張してきました。いよいよ自分の試合になりました。結果は負けてしまつたけど、とても勉強になりました。練習試合を終えてから、ニューヨークにバスで向かいました。ホテルに着いたところで、米塚先生とは別れました。最終日、ニューヨークを視察し、自由の女神などを見ました。帰る時間になり、空港に向かいました。アメリカから韓国までは約14時間かかり、行きも帰りもずっと飛行機の中で、とても疲れました。今回の青少年スポーツ国際交流事業で、いろいろなことを学びました。日本とアメリカの食べ物や文化の違いも分かつたので、この5泊6日の短い期間で学んだことを、これからの生活、学校で活かしていきたいです。

## ■アメリカ遠征に行つて



浅野生士くん(2年)

7月29日、柔道部はアメリカ遠征に行つてきました。役場に集合し、最初に出発式をやりました。町長の小野俊逸さんから話がありました。それから記念写真を役場の玄関前で撮りました。それからバスに乗り、午前10時20分に出発しました。バスで時間が過ぎ、青森空港に着きました。飛行機でいったん韓国に行き、アメリカへ出発しました。夜8時くらいに着きました。入国審査を通過してからバスに乗り、ホテルに着きました。次の日、午前中と午後5時まで、克蘭フォード町内の見学をしました。5時30分からJKC(柔道空手センター)で練習しました。アメリカの人は力がとても強かったです。午後7時30分まで練習して、それから夕食を食べに行きました。アメリカと日本の食事はだいぶ違いました。違った点としては、米が出ないということです。私たちが普段何気なく食べている米が、アメリカでは出ないので、ちよつとした違和感を感じました。

次に、フライドポテトが結構多く出るということです。毎日のようにフライドポテトが出て飽きました。

3日目、ホテルで朝食をとりました。朝からドーナツで、キツかったです。その日は親善試合でした。団体戦で勝ちました。その日の午後いろいろな場所を見学しました。地面から空を見上げると首が疲れるくらい建物が高くありません。日本では見たことのない高さの建物があつて、ビックリしました。いろいろな場所で記念写真を撮つたりもしました。まだ建設中などの建物もあり、どのくらいの高さになるのか想像もつきませんでした。ニューヨーク市内を見学し終わったあと、市内のホテルに泊まりました。

最終日の朝、朝食を食べ終わつたあと、部屋でゆつくりし、荷物を準備して、バスに乗つて市内を見学しました。タイムズスクウェアなどを見学し、9・11があつたところを再建した建物などを見てきて、いろいろガイドさんの説明を聞きながらいろいろ回つていくうちに、空港に着きました。出発時間まで空港を見学し、韓国経由で青森に帰つてきました。

この5泊6日は、僕にとって世界のマナーや食生活の違いなど、よい経験になりました。

## 7月31日(火)

柔道空手センターで親善試合  
ニューヨーク市内視察  
メトロポリタン美術館など



【メトロポリタン美術館】



【親善試合】

## ■初めてのアメリカ



坂本龍生くん(2年)

僕にとっては、初めてのアメリカでした。前日はとてもワクワクしていて、反対に不安な部分もありました。不安な部分とは、アメリカに行つてうまく交流ができるか、犯罪に巻き込まれないかなど、たくさんありました。

そして1日目が始まりました。1日目は、ずっと飛行機などでの移動でした。僕は、飛行機に乗るのは初めてでした。本当にきちんと飛ぶのかなどの不安もありましたが、きちんと飛びました。韓国の空港に着き、しばらくしてから次の飛行機に乗り継ぎました。2番目に乗つた飛行機は、1人ずつ客席にテレビがついていて、あまり暇になることはありませんでした。でも、14時間の飛行はさすがに疲れました。到着後、バスに乗つて夜のアメリカを見ながら、ホテルに向かいました。ホテル周辺に着いてから、バスの運転手が結構迷つたので、少し不安になりましたが、無事到着できました。時差ボケがすごく、夜なかなか寝つ

けませんでした。

2日目が始まりました。2日目の朝はドーナツでした。たくさん食べましたが、後から腹の調子が悪くなりました。そのあと米塚先生が来て、克蘭フォードの町役場訪問に行き、警察署や消防署も見せてもらいました。見学後、またバスに乗つてビーチに行きました。青森のビーチとは違い、とても広く、人がたくさんいてすごかったです。そしてとうとう、アメリカ人と柔道の練習をしました。アメリカ人は力が強かったです。

3日目になりました。親善試合をしました。僕は負けてしまいました。この悔しさをバネにして強くなりたいです。試合後、メトロポリタン美術館を見学しましたが、たくさん展示物があり、びっくりしました。

そして最終日、自由の女神を見に行きました。自由の女神は大きくすごかったです。そしてエンパイアステートビルに登りました。とても高く、少し怖かったです。そのあと、空港に行つてまた飛行機に乗つて帰りました。

初めてのアメリカは、びっくりしたことやすごかったことがたくさんありましたが、何よりもみんな無事で帰つてきてよかったです。アメリカは勉強になり、とても楽しかったです。

## ■柔道 in アメリカ



野上凜音さん(2年)

克蘭フォード柔道空手センター。ここは米塚義定先生が建てた道場。中に入ると、階段しかなかった。私は「畳がないところだ」と思った。階段を下りると、一面の畳が見えた。「ここで練習しているんだ」ちよつとわくわくした。大人の人がたくさんいた。「え？ みんな柔道？」と思つていたら、空手の人たちが10人以上来て、そのうち女子は5人くらいだった。「強いのかな？ 弱いのかな？」私は早く一緒に練習したくなった。

とわくわくした。「まず右で組み、大内で崩し、背負いをかけよう。それがだめだったら、左の背負いをかけよう」と思った。はじめに団体戦のように並んだ足に力が入った。戦闘モード。「△☆☆○×◇…。ナカサトクラブ リンネ ノガミ」米塚先生が言った。「……………はあ？」と言った。対戦相手の名前は長くて分からない。でも強そうだ。「ハジメ」「こーい!!」右手で組むと同時に、大内をかけた。相手は後ろに倒れていった。チャンス。私はすぐ寝技に入った。「オサエコミ」タイムーがない。どーやって時間を計るんだ？ しばらくしたらお手玉のでつかいのが、私の近くに飛んできた。わつと思つた。「イッポン」お手玉は、タイムーの代わりだった。あつという間に試合が終わった。もう少しやりたかった。今回、柔道を通してアメリカの人たちと交流した。不安になつて私に、優しく日本語で声をかけてくれた。言葉は思うように通じないけれど、一緒に笑い合える時を過ごした。住んでいるところは違うけど、心が通じた気がした。でも、食事は朝から油たっぷり、量も多くてキツかった。

## 8月1日(水)~3日(金)

### ニューヨーク市内視察

自由の女神、グラウンド・ゼロなど

空路で青森空港へ、町役場到着



【成果を町長に報告】



【自由の女神像前】

## ■5泊6日アメリカへの旅



川島翔希くん(3年)

アメリカへの旅前日、行くのが楽しみだったり、飛行機に乗るのが楽しみだったり、寝られない日が続く、気づくとアメリカへ行く日になっていました。当日、保護者や町長などの見送りがあり出発した。バスで1時間数分ぐらいで青森空港に着いた。今回行くのは柔道部2年、3年生のほか、役場の人たちにコーチや添乗員も合わせ、合計14人でアメリカに行くことになりました。僕たちは、アメリカへ行くのに青森空港から仁川という韓国の空港へ行き、アメリカのケネディ空港へという道のりです。空港に着くと、もう夜中になっていました。空港で一番大変だったのが入国審査です。とりあえず、持つて行った紙を出し、いろいろ聞かれましたが、もちろん何を言っているかさっぱりで、一応クリアしました。

2日目、練習生と練習をしました。みんな力が強く、体格がいい人ばかりでした。そんな中で、負けずにはがんばりました。食事はやはりファストフードで、食べるのが少し大変でした。3日目、親善試合があり、団体戦形式にして試合をしました。いろいろあつて、5対2、1引き分けて勝ちました。その日、ホテルからチェックアウトし、ニューヨークのホテルに泊まりました。食事は、主にポテトが多かったです。この日はニューヨークのさまざまなどころに行ってみました。4日目、今日でアメリカから帰ることになります。この日は、主に自由の女神がある島に行きました。フェリーで行くときも見えましたが、やはり真下から見ると自由の女神の方がすごく圧倒的でした。この日の食事は前日とほぼ同じでしたが、アメリカで最後に食べた中華料理がとてもおいしかったです。そして、日本に帰るときがやってきました。思い出せば、食べ物は大変でしたが、練習生との練習、試合はとてもよい思い出です。今回のアメリカの旅は、たくさんの人々にお世話になりました。英語が勉強不足で、何と言っているのかも分からないし、何を言っているのかも分からない状態でした。それでも伝えたいことを英語で伝えようとがんばりました。今回のアメリカの旅を一言でいうと、とてもいい経験になったということです。